

名家連ニュース

平成 29 年 2 月 14 日 (火)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX (052) 846-5576 NO. 445 号

多い発達障害の家族相談

最近、発達障害のご家族からの相談が多くなりました。統合失調症とは明らかに障害特性が異なり、相談員も対応に苦慮する場合があります。

名家連では障害年金については、社会保険労務士と連携し支援活動を行ってきましたが、今回、医療センターで専門的な対応が開始されることになり、大きな期待を寄せています。

(名家連 家族相談室より)

5回 家族SST講座開催



2月11日(土)16名の家族が参加。電話相談員から相談事例、家族から自立に向けた悩み事相談を受けて、参加者でディスカッションしました。吉田先生や二人の支援者で本人の生活状況を整理して書き出していくと、家族以外に本人が相談できる方々が意外にも多いことに気づかされました。また、電話相談では、相談できないことは上手に断る術も伝授。お互いに考えさせられる有意義な勉強会でした。

第6回 家族SST講座の案内

平成 29 年 3 月 26 日 (日) 13 時 30 分～
同朋大学教室 ▶ 地下鉄東山線「中村公園」駅下車
市バス「稲西車庫」行き乗車「鴨付町」下車

中日新聞 平成 29 年 2 月 8 日 (水) 朝刊

愛知県が成人発達障害病床

愛知県は二〇一七年度、対人関係や社会への適応が難しい「発達障害」を診断する成人専門の病床を、県精神医療センター(名古屋千種区)に新設する。障害の有無などを調べるために一定期間が必要な入院検査が可能となる。関係者によると、発達障害の成人専門病床は自治体立では初めてで、大病院でも東京大や昭和、浜松医科大学など限られるという。発達障害は知的障害がある場合とない場合がある。知的障害があれば幼児期に見つけやすく、小児の治療態勢は進んでいる。一方で発達障害が一般に知られるようになったため、社会人が昇進や結婚など環境の変化をきっかけに初めて障害と分かる例も増えている。専門の四床を一八年二月に新設し、常勤医も二人増員する。治療プログラムによると、コアセサメント(評価)入院として十二日間、入院してもらい、問診などを通じて障害の有無や特徴を調べ、通院による臨床心理士のカウンセリングなど、治療につなげる。年百人ほどを入院させることができる。センターは前身の城山病院時代の二〇〇〇年代から外来で、

自治体で初

成人の発達障害を診療している。だが、一回四〜五時間の問診が何度も必要とされ、集中的に診断できる専門病床が求められてきた。治療では、医師や臨床心理士らと交えたグループで悩みを語り合うことが重視される。不安や緊張を和らげ、考え方や行動習慣を見直すことで、社会に適応しやすくなる人もいる。センターの大村豊医師は「うつ病などを発症して受診し、発達障害に気付くケースが多い。どんな診断や治療が有効か、モデルケースを作りたい」と話す。